

東海大の皆さんとの交流会

2014年12月9日、東海大学原子力工学科より大江先生、亀山先生、院生・学生合わせて11名の皆さんに原研にお越しいただき、施設見学および研究紹介、意見交換を行った。はじめに当施設の紹介として研究用原子炉「武蔵工大炉」の設置、運転、そして現在の廃止措置に至る状況の概要を説明した。続いて、管理区域への立ち入りに当たっての注意事項及び事務手続きを行い、現場を見学していただいた。原子炉室、放射能測定実験設備、加速器構築状況、制御室の原子炉シミュレータをご覧頂いた。学生実験として中性子計測実験を行っていることを説明したところ、大変関心を持っていただいた。

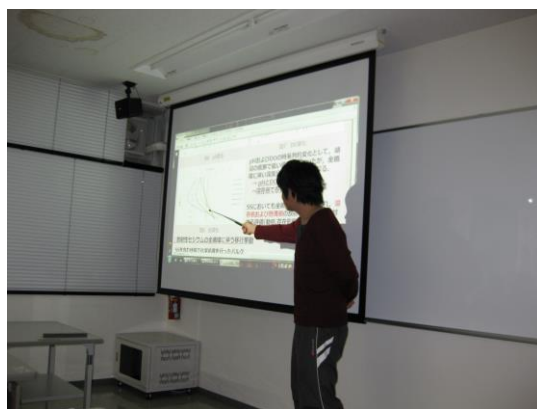
研究紹介では、まず東海大学より「全体概要説明：主な研究活動の紹介（亀山先生）」、「放射線計測システムの開発（学部4年生）」「原子炉シミュレータ TURS の現状（学部4年生）」の3件の発表をしていただいた。放射線計測システムは、富山高専と連携してNaIシンチレーション検出器を用いて小型・高精度・低コストの計測システムを開発しているとのことであった。今後、当施設にある環境試料をこの開発した検出器で測定してみたいとご提案があり、今後詳細を検討し実施していくことになった。また、原子炉シミュレータについては1994年に導入・設置し、ここ数年でさらに整備を進め学生実験として利用しているというご紹介があった。当施設でもシミュレータを開発しているので、情報共有して連携していきたいと提案したところ、ぜひやりましょうということになった。

都市大からは共同原子力専攻の修士1年の学生が3件発表した。発表内容に対して大江先生、亀山先生より貴重なコメントを多数いただくことができた。

武蔵工大炉が運転していた当時は、東海大学とも連携して研究を進めてきた。原子炉は廃止となったが、地理的にもそう遠くないお互いの機関がこのような形で連携し、共同利用、共同研究を積極的に進めていくことができれば、学生にとっても、当施設にとっても非常に良いことであると考えている。



東海大・研究紹介



都市大・研究紹介

2014年12月10日
東京都市大学 原子力研究所